

目 次

序 文 学校危機への予防と早期対応に関する研究の推進 (P. 1～)

第1章 学校危機の現状と危機対応への緊急的課題 (P. 4～)

- 1 児童生徒を取りまく危機的状況
 - 1) 深刻な昨今の少年犯罪
 - 2) 増える傾向の児童生徒の自殺
 - 3) 学校での指導の限界まで来た中学生の校内暴力
 - 4) まだまだ根深いいじめの実態
- 2 教師が経験する学校危機の現状と対応の実態調査研究
 - 1) 教師が経験する学校危機の実態
 - 2) 教師による危機対応の現状と困難点
 - 3) 危機対応に関する教員研修について
- 3 学校における危機対応の緊急的課題
 - 1) 学校・教師の危機意識の向上
 - 2) 学校危機に関する教師研修
 - 3) 学内における危機対応組織の編成
 - 4) 危機対応実践プラン・マニュアルの作成
 - 5) 危機対応実践演習(訓練)の実施

第2章 学校における危機対応実践プラン (P.32～)

- 1 米国の学校における危機対応チームの構成と連携
 - 1) 危機・コーディネーター 2) 教師・リエゾン 3) 生徒・リエゾン 4) 保護者・リエゾン 5) カウンセリング・リエゾン 6) 医療・リエゾン 7) 司法行政・リエゾン 8) メディア・リエゾン
- 2 わが国の学校における危機対応実践プラン
 - 1) 管理職(校長・教頭) 2) 総務・教務主任 3) 生徒指導主事 4) 学年主任・学級担任 5) 教育相談係・養護教諭・保健主事・(スクールカウンセラー)

第3章 危機事例に学ぶ危機対応の実際 (P.47～)

- | | |
|------------|-------------------|
| 1 いじめ | 7 校内での突然の事故死 |
| 2 不登校 | 8 児童虐待 |
| 3 学級崩壊 | 9 家庭崩壊 |
| 4 突発型の暴力行為 | 10 家族の喪失 |
| 5 性的犯罪被害 | 11 自然災害(阪神・淡路大震災) |
| 6 自殺企図 | |

第4章 阪神・淡路大震災の教訓に学ぶ心のケアの実際 (P.115～)

- 1 心のケアに対する取組
 - 1) 被災直後から平成7年度の取組

- 2) 平成8年度～平成11年度の取組
- 3) 平成12年度の取組
- 2 教育復興担当教員配置の成果
- 3 今後の課題

第5章 心の危機への対応と学校組織の今後の課題

(P.126～)

- 1 心の危機の水準
 - 1) 心の危機第3水準
 - 2) 心の危機第2水準
 - 3) 心の危機第1水準
 - 4) 心の危機の水準と学校危機の特徴
- 2 心の危機第3水準に対応する学校組織
 - 1) 事前(予防)
 - 2) 発生(発覚)時
 - 3) 事後
- 3 心の危機第2水準に対応する学校組織
 - 1) 事前(予防)
 - 2) 発生(発覚)時
 - 3) 事後
- 4 心の危機第1水準に対応する学校組織
 - 1) 事前(予防)
 - 2) 発生(発覚)時
 - 3) 事後
- 5 まとめにかえてー現在の学校組織をどのように変革するかー
 - 1) 教育相談・学校カウンセリングに関する分掌の独立
 - 2) 「いじめ防止教育」への具体的な取組の中から、学校組織の見直しへ
 - 3) 「危機対応チーム」の構築と、危機対応の可能な学校組織の再編へ

第6章 危機における心の理解と対応モデル

(P.150～)

- 1 危機と3つの心のケア
- 2 危機後の心のケア体制と認識
 - 1) 危機対応チームを発動する
 - 2) 危機直後の心のケア体制と内容
 - 3) 教育委員会や学校長は心のケアの必要性を認識する
 - 4) スクールカウンセラーと教師が連携しておこなう心のケアの要点
- 3 心のケアの基本的な考え方
 - 1) 危機での心身反応を知る
 - 2) ショックからの回復を支援する
- 4 心のケアの実際
 - 1) パンフレットを作成する
 - 2) ストレス調査を行う
 - 3) 親のグループを呼びかける
 - 4) 教師のグループ研修を呼びかける
 - 5) 子どもに「心の授業」を実施するーこれまでなされた子どもへのワーク
 - 6) 日常性を取り戻す
 - 7) 亡くした人を心の中に生かす作業
- 5 保護者への通信と心のケアについてのアンケート
- 6 ストレスマネジメント授業の指導案(災害, 小学校編)

資 料

(P.177～)